



令和4年10月7日

鳥取県東部広域行政管理組合
 管理者 鳥取市長 深澤義彦 様

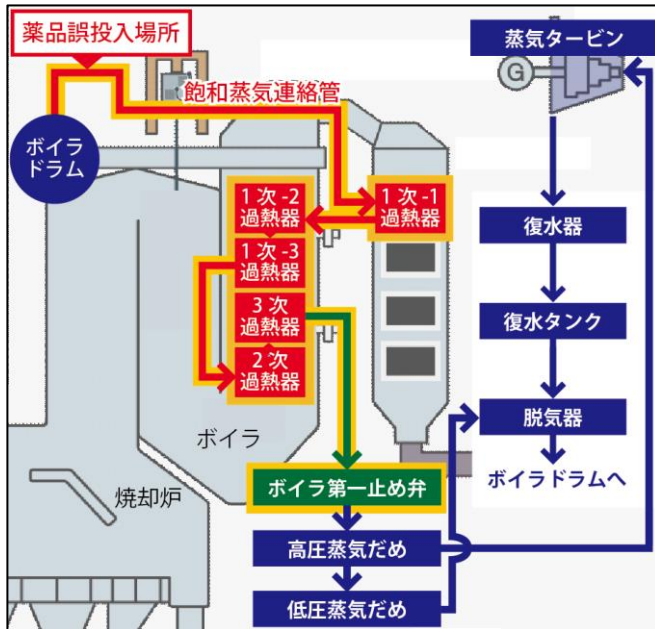
JFE エンジニアリング株式会社
 代表取締役社長 大下 元

可燃物処理施設建設工事ボイラ水漏れに係る影響調査及び原因究明結果等について

1 薬品誤投入に係る影響調査結果について

影響調査の結果、ボイラ修繕に係るスケジュールに変更はございません。
 修繕期間：～令和4年12月31日
 試運転期間： 令和5年1月4日～3月31日（ごみの受入れ再開）
 本稼働開始： 令和5年4月1日

(1) 影響範囲及び対応



影響範囲

薬品を誤投入した飽和蒸気連絡管から3次過熱器まで影響（応力腐食割れ）が確認されました。

交換範囲

安全を見て飽和蒸気連絡管からボイラ第一止め弁まで新規交換します。

その他範囲の対応

影響はありませんが、純水洗浄を行い、ボイラ内の全ての水の入替を行います。

(2) ボイラ修繕スケジュール（変更なし）

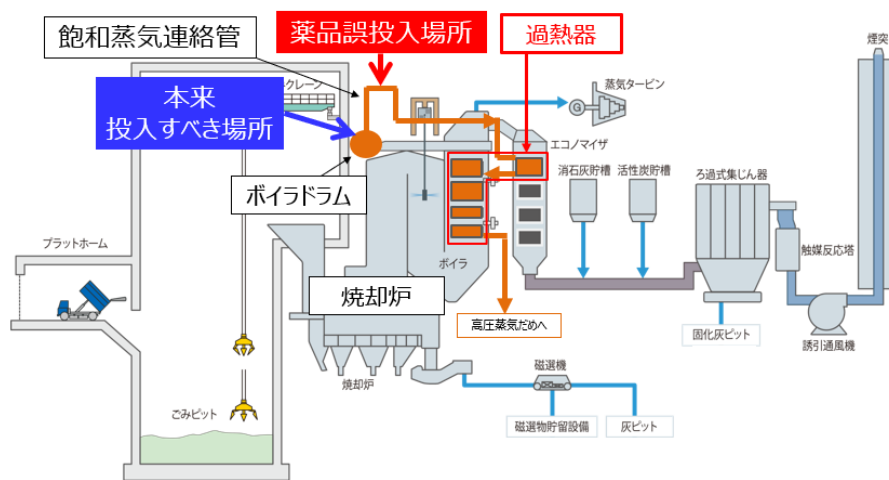
	22年度												23年度
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
調査・分析	→					▲							
材料手配・製作						▲							
過熱器	→												
弁類	→												
配管類	→												
工事													
撤去				→									
新設							→						
試運転										▲		▲	
神谷工場稼働	→												

2 水漏れ原因究明結果について

- ・ボイラ内部洗浄要領書において、薬品の投入場所の記述が曖昧で誤認しやすいものになっていました。また、ボイラ内部洗浄作業の現場でのチェック体制が不十分でした。
- ・薬品が過熱器側に流入した場合の影響について職員への周知が不足していました。

(参考) 水漏れ発生原因

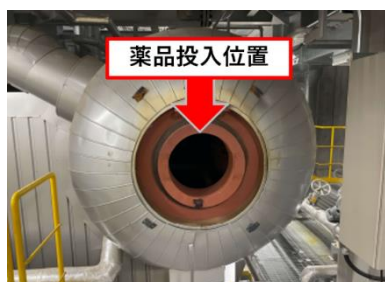
ボイラ内部洗浄用の苛性ソーダを、誤った場所（飽和蒸気連絡管）から投入したことにより、過熱器へ苛性ソーダが流入しました。その状態からボイラ内部洗浄を行ったため、苛性ソーダが蒸気系配管へ移行し、応力腐食割れが発生したことにより過熱器管等に破孔が生じました。



3 今後の対応について

- ・ボイラ内部洗浄要領書を全面見直し、誰が作業しても二度と手順を間違えないようにしました（下（参考）参照）。また、作業手順のチェックリストを追加するとともに、作業前には作業員全員で手順を確認します。
- ・薬品が過熱器側に流入した場合の影響を社内関係者全員に周知徹底しました。
- ・ボイラ水質調査を月1回確実に実施・監視することで、ボイラの異常の兆候を見逃さないよう徹底した運転管理を行います。
- ・この度の水漏れを教訓として、このようなことが二度とないよう全社で再発防止に取り組み、住民の皆様の不安を払拭できるよう、安全かつ安定的な施設の運営管理を行います。

(参考) ボイラ内部洗浄要領書の見直し（一例）



薬品投入位置を写真で図示し、誰が作業しても間違わないように修正しました。